

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5

TEL 03-3201-0350 FAX 3201-0351

Eメール jrtoukairou@yahoo.co.jp

J R東海労働組合

発行人 木下 和樹
編集人 高山 浩

2019年
7月1日
第414号



JR東海労

http://jrtoukairou.sakura.ne.jp/

組織拡大の成果を踏まえ、職場からの闘いを推し進めよう!

第35回定期大会開催



今年5年ぶりに組織加入を勝ち取りました。水野良則さん、寄本智さ

J R東海労は6月9日、名古屋市内で第35回定期大会を開催しました。大会には、総勢110名が結集しました。議長に上田代議員(名古屋地本)を選出しました。主催者を代表して木下委員長は、挨拶で「水野さん、寄本さん、池田さんに続く組織拡大を目指す」と訴えました。来賓として、J R総連柳書記長、楠関ヶ原町議会議員、福島OB会長、鉄道フアミリー菅野営業部長から挨拶を受けました。質疑では、全代議員からJ R東海労に加入した3名の仲間を歓迎し、共に闘う決意が述べられました。

さらなる組織拡大に向けて奮闘しよう!

木下中央執行委員長挨拶

J R総連瀬上法対・調査部長からの感想を受けた後、本橋書記長の総括答弁、木下委員長の団結ガンバローで大会は成功裡に終了しました。

ん、池田裕生さんです。「命令と服従」の社員管理は認めない、「みんなは一人のために、一人はみんなのために」闘ってきたことで、組織加入を勝ち取ったことを確認しようではありませんか。そして、3名を歓迎し、会社内のみならず、世の中にはびこる理不尽に抗し、共に闘う決意を打ち固めたいと思います。

この一年間、再開された同意なき一方的休日出勤指定に対する闘いが大きな課題でした。会社は「2019年度、新幹線乗務員で2、3泊、在来線は1、2泊の休日出勤が発生する」と表明しました。現実には、新幹線では4、6月は他労組組合員も含めて休日勤務指定はありませぬ。会社は「就業規則、協約に則って必要な休日出勤はやつてもらう」と言っています。就業規則や法令について、

会社の恣意的解釈に基づいた勤務扱いをさせない闘いの成果だと考えるべきではないでしょうか。会社は、予備月の勤務、年休発給について、可能な限り前月25日までに発表するつもりです。会社は、いかに少ない要員で列車を動かすかを考え、5日前まで勤務を確定させないできました。しかし、私たちの様々な闘いで、それができなくなつた、要員を増やさざるを得なくなつた、闘いの「前進」だと考えます。

都労委闘争の過程で会社が「20日までの年休申し込みは仮のもの、コミユニケーション」と言ったこと、年休裁判で「年間休日120日」と年休20日を出せる要員は確保している」と言ったこと、この実態を合わせるために同意なき一方的休日出勤を再開したことに対して、J R東海労が年休に

関する苦情申告とその事前審理、あるいは苦情処理会議での法的追及が、会社の対応のジグザグを生み出させました。乗務員養成の拡大、プロ大社員の増配置、総合職社員の現場研修の延長、駅環流時期の後ろ倒しといった対策を同時に打たざるを得なくなつたのだと思います。これらは、職場で組合員の皆さんが考えて工夫して闘ってきたということなんです。

そして、この闘いの過程において、水野さん、寄本さん、池田さんに「物言わぬ労働組合・J R東海ユニオン」からの脱退と、J R東海労組合員として共に闘う決意を促したということだと思っております。

第1の課題は、安倍首相が推し進める「戦争ができる国づくり」を阻止する闘いです。安全保障関連法が施行されて、3年が経過しました。2019年度予算で防衛費は過去最大となり、自衛隊は「米艦防護」などの安保関連法に基づく新任務を次々と実施し、米軍との共同訓練も重ね、自衛隊・米軍の「一体化」が着実に進んでいます。安倍首相は2020年に「自衛隊が書き込まれた新憲法の施行」を目指しています。自衛隊の存在が憲法に明記されれば、国会や内閣と自衛隊が同列となり、シビリアンコ

ントロールが有名無実化する恐れがあります。国民投票で「改憲反対」の意思表示をする仲間を、職場や関係職場で共に働く労働者の中からつくり出していきましょう。

第2の課題は、安全問題です。2017年12月に「のぞみ34号」が台車の異常を感じつつも、3時間以上にわたり運転を継続させた問題で、国土交通省・運輸安全委員会は3月28日、調査の最終報告を公表しました。その中で、乗務員、保守担当、指令員らが音や匂いなどの異常に気づきながらも運行を続けたことについて、「大したことになるまいだろう」と事態を過小評価する「正常性バイアス」が働いた可能性を指摘しました。正常性バイアスとは、多少の異常事態が起こつても、それを正常の範囲内として捉え、心を平穏に保とうとする働きのことです。人間が日々の生活を送る中で生じる、様々な変化や新しい出来事に、心が過剰に反応し、疲弊しないために必要な働きだとされています。

運輸安全委員会の指摘は、非常に重要なことです。単にJ R西日本のみならず、J R東海への指摘でもあります。J R東海には責任が無いようにしてありますが、新大阪駅で車両点検を行わず、そ

【2面につづく】



上田議長

【1面よりつづく】
 のまま名古屋駅まで運転させ、また、名古屋駅から発車させようとしていることは明らかです。今、職場は正常性バイアスが非常にかかりやすくなっています。どの職場においても、余裕を持って働けるように声を上げなければなりません。
 ところで、会社は「東海道新幹線は津波による危険はない」と頑なに言い続けています。これも「自治体が大丈夫と判断しているのだから、多分大丈夫だろう」というバイアスが働いているのではないのでしょうか。

共に闘うための「来賓からの挨拶」

J R 総連柳書記長



帯をつくり出していきますが、それと同時に、若者からすると魅力のない、働きがいを感じられない会社、転職も考えざるを得ない労働条件、職場環境をどうやって変えていくか、そして前提として、私たちJR東海労働組合がどのような運動を展開するかが3つ目の課題です。

お金が必要な事情がある方もいるでしょう。しかし、休日出勤ありきの賃金の生活が果たして良いことなのでしょうか。本来ならば、年間休日120日、年休20日を取得し、225日働けば普通に生活できることが基本です。それを諸先輩方の闘いも含めて、そのような労働条件を勝ち取ってきたのです。休日出勤をしないでも普通に生活ができる会社に、あるいは社

会・世の中にするべきことを目指すべきです。
 水野さんの加入で、JR東海労の平成採組員は森下さん、松山さんの3人になりました。平成採組の出発点・核ができました。3人を核として、さらなる組織拡大を勝ち取っていくことが、「東海の地から労働運動の炎を消さない」を合言葉に奮闘してきた私たちの任務ではないかと考えています。

いて社会的に発信していると考えられています。更衣時間の勤務時間化についても同時に訴え、またマスコミへの発信も同時に行っていきたいと考えています。JR東海労の仲間の方々と、共に闘ってまいります。

J R 総連春闘では、各単組でベアを勝ち取ることでできました。しかし、19春闘ではベアの非公開という、春闘のあり方を見直す歴史的転換となりました。20春闘では、さらに多くの労働組合がベアの要求額を提出しない、回答も明示しないという方向に動いていいます。JR総連は、19春闘を総括し、統一要求・統一闘争として、春闘の歴史と伝統を守り抜くための20春闘を築き上げたいと思います。

過日、シーサイドラインで無人運転の列車が逆走、衝突する事故が発生しました。自動化の落とし穴は存在します。私たちは、自動化にどう向き合うのか、働き方はどうあるべきか、安全の技術継承はどうすべきか、現場で働く私たちがからこそ出せる政策提言を練り上げていかなければなりません。政策提言フォーラムを来年の春闘以降に開催していきたいと思えます。

JR総連は6月3日、第35回定期大会を開催しました。大会は、松山代議員のトップ発言でスタートし、松山さんがJR東海労に加入した経緯と、組合員を守らず会社にものを申さないJR連合の組織の現実について発言をして頂きました。特に、JR東海労が無くならない会社から労働組合が無くなるという危機感から、組織拡大の重要性ならびに、3名の組織拡大を実現してきた成果と、会社による一方的な

にならないと勤務指定する会社は有り得るのか」と「明らかに労基法違反だ」という意見を頂きました。今回会社は、休日出勤を許さないことを装っていますが、これは年俸裁判と併せ、国会議員への働きかけを含めた私たちの闘いの成果であることは言うまでもありません。また、闘いの過程で組織拡大を実現したことも大きな成果です。

「本人の同意なき一方的休日出勤は断じて許さないと休日出勤を強制する会社の実態を訴えてきました。参加した議員からは、「一方的な休日出勤はJR東海だけなのか」「対象の社員は限定されているのか」「今どき5日前

法改悪に反対する候補者を支援します。
J R 東海労OB会福島会長
 敬意を表します。
 私は47年前、25歳で国鉄を解雇されました。森下さん、松山さん、水野さんと同じように、一度は地獄を見てきました。私を救ってくれたのは、動労という闘う組織であり、職場で闘う先輩や仲間たちでした。JR採用の3名の核ができたことにより、JR東海労の新しい未来が誕生した記念すべき大会です。今後もOBは、微力をつくしていきます。

統一地方選において、皆様のご支援により、4期目の当選を果たすことができ、大変ありがとうございました。元氣の出る、そして

楠関ヶ原町議会議員



統一地方選において、皆様のご支援により、4期目の当選を果たすことができ、大変ありがとうございました。元氣の出る、そして

働く者の権利を守るために、右傾化する国内外の政治状況の中にあつて、それぞれの場で何をなすべきかが問われています。仲間と共に、勇気を持って歩み続けようではありませんか。

鉄道ファミリ―菅野営業部長



世代交代で役員体制が大きく変わりました。賛助団体として組織でつくられた会社であることを忘れず、皆さんと共に歩んでいきます。

全代議員が3名の加入を歓迎する発言 会社の理不尽に立ち向かう実践的発言相次ぐ

◆水野さん、寄本さん、池田さん3名を熱烈歓迎し、共に闘う。さらなる組織拡大に向けがんばる。

◆加入にあたり、各地本はもとより、JR総連、

JR西労、JR貨物労組の仲間から心温まる檄を頂き、御礼を申し上げる。

◆3名の加入はJR東海労運動が間違っていないことを証明し、今後も取り組みを通じて新たな拡大を目指す。加入した仲間に対し、点呼の立ち会いなどで、管理者から威圧行為を受け抗議した。会社から手を出さない取り組みを行ってきている。

◆一方的休日出勤反対の闘いの最大の成果は、水野さん、寄本さん、池田さんの加入である。今後、会社が年休を出すために一方的休日出勤を指定してくることは明白。早急



に「いかに闘うのか」「全組合員一丸となつての闘い方は何があるのか」等の意思統一する場が必要。よって、運輸4分会の合同会議開催を本部に要請する。

◆在来線でも休日出勤をいつやられてくるか分からない。調査活動を継続し闘いをつくる。

◆会社は、休日出勤に対し「解消するスタンスに変わりはない」と言い続けてきたが、真つ赤な嘘と断言できる。「新人事・賃金制度」見直しで、休日出勤の割増率が150/100から160/100と提案。これだけでも無くすことなど考えていないことは明らか。会社による「一方的休日出勤指定」は、権利としてある年間休日120日の休日を奪うもの。会社は常に労働者の権利・既得権を奪い続ける。闘いを職場からつくり上げなければならぬ。

◆臨大以降、運輸所分会が中心となった社会に訴える闘いとしての外部単産への働きかけ、国会議員への要請行動とマスコミへの訴えかけ、団交開催要求、ありとあらゆる闘いにより「本人の同意なき一方的休日出勤」は指定されていない。この

ことは、臨大で確認して実践してきた方針の正しさが実証された。◆今年度の要員計画で休日出勤は2/3泊としているが、乗務員養成数の増加、プロ大乗務員の増配置、駅環流時期の変更、総合職乗務員期間延長、予備勤務前月25日発表などの対策を明らかにした。ダイ改後、JR東海労組合員には一方的休日出勤は指定されていない。GW10連休でも発生しなかった。闘いの結果、会社は改善策を実施せざるを得ない状況をつくり出した。闘いの成果を確認すべきである。労働協約で年間休日は謳われている。従って、会社がお願ひするのが当たり前である。そもそも、年度初めに休日出勤ありきで要員配置すること自体が間違っている。この姿勢を糾弾していく。



◆新人事・賃金制度の見直しは、全てをリニア建設のためにシフトしたものの。人件費を削減し、社員間の競争を煽り、その差別で会社への忠誠心を持たせ、労働者の分断を図り、労働組合不要論を推進するもの。年金支給が出ない65歳まで働かざるを得ない中、あまりにも条件が悪い制度と言わざるを得ない。会社は改定の提案を出したが、まだまだ改善しなければならぬ。会社の狙いやJR東海ユニオンの犯罪性を暴露する闘いを推し進める。

◆高年齢者交替(行路)や短日数勤務に向けて取り組む。◆祝日手当が無くなる計算だと、6年前の年収とほぼ同じになる。◆新賃金・人事制度の見直しに反対する闘いとして、地本独自で9部の情報を出した。この制度は乗務員の特殊性の否定、先達が闘いで勝ち取った賃金・手当の剥奪、削減が会社の狙いである。また、非現業社員には手厚い制度であり許せない。

◆年休裁判で会社は、予備月の勤務を前月25日に発表すると言いつつ、裁判の過程で私たちが主張してきたことについて「それは争点ではない」と逃げたにも関わらず、認めざるを得ないところまで追い込んだ。裁判の目的は、年休発給をはじめ職場の課題を解決すること。

◆川本さんの裁判で、管理者は「自分が書いた注意指導メモにより、パソコンに入力してメモは廃棄した」と証言した。おかしな行為である。川本さんは「基本動作の確認はしている。運行に支障はない」と正々堂々と証言した。これからも川本さんと共に闘っていく。◆キャンペーンは、準備地本として最大限準備を進めていく。多くの参加者をお願いする。



◆裁判闘争を通じて、出向先会社の問題や職場諸要求などを勝ち取ってきた。団体交渉は6回行い、作業時間外のディンプルキー受け取りを時間内でやるようになった、各事業所でバラバラだった年休申込み簿が統一された、年休申し込みの改善、点呼と作業開始時刻の改善を勝ち取った。

◆水野さんの裁判の証人尋問で、本人は堂々と証言した。全体で支えていく。トラベルサポートセンターとの団交によって、掲示板が設置された。JR東海労に加入を目指していく。

◆診断書強要都労委闘争で、証人審問に多くの仲間が駆けつけた。この中で、「年休11欠勤、年休は与えるもの、20日まで年休申し込みはコミュニケーション」など、会社主張の不当性がアピールできた。会社が墓穴を掘った都労委であった。都労委闘争は、年休裁判と連携し大きな成果となった。

◆島田駅と身延線での列車妨害(盗難)で問題は、忍び錠が報道されていることから、内部犯行説の狙いがあると見なければならぬ。地本は早急に申し入れを行い、近々業

務委員会が開催される。◆安倍政権による平和・人権・民主主義を侵し「戦争ができる国づくり」を許さないための闘いをやってきた。とりわけ、統一地方選では、関係づくりを行ってきた。

◆リニア中央新幹線建設は、静岡県知事の指摘・意見や出水事故、崩落事故等があり、会社は「開業が遅れる可能性」と言い出している。建設反対の闘いを強化する。

◆新幹線の英語車内放送は止めた方が良くと思う。◆退職後も組合員として残りたい。◆松山さんがJR総連大会の代議員で発言するので、大会に傍聴参加した。先輩として、何をやらなければならぬのかを考えて行動しなければならぬ。青年部時代の闘いを思い出してやっていく。

◆ソフトバンク労組のJR総連脱退は本当に残念だ。

◆島田駅と身延線での列車妨害(盗難)で問題は、忍び錠が報道されていることから、内部犯行説の狙いがあると見なければならぬ。地本は早急に申し入れを行い、近々業



【発言は順不同です】

◆島田駅と身延線での列車妨害(盗難)で問題は、忍び錠が報道されていることから、内部犯行説の狙いがあると見なければならぬ。地本は早急に申し入れを行い、近々業

「1人はみんなのために、みんなは1人のために」闘おう!

本橋書記長総括答弁



3名の仲間がJR東海ユニオンと決別しJR東海労に加入しました。最大の成果を全体で確認しようではありませんか。

この間私たちは、会社の理不尽な扱いに対し「泣き寝入りをしてはならない」として、あらゆる取り組みを進めてきました。「1人はみんなのために、みんなは1人のために」闘ってきました。こうした闘いを見てきた3名は、JR東海労は労働者の立場に立っていると感じて、JR東海労に加入しました。さらなる組織拡大のためにも、職場からの闘いをより一層強化していくことをやめよう」という闘う方針を決定しました。交渉の強化、苦情申告、年休の時季指定など職場での闘い、そして社会に広く訴える闘いを展開してきました。新幹線関西地本は、運輸所分会の仲間を中心に関係のある労働組合に訴えかけ、広がりをつくってきました。新幹線地本は本部と共に、JR総連推薦議員懇談会に所属する国会議員への要請やマスコミへの説明も行ってきました。



会社は「新幹線乗務員2〜3泊、在来線乗務員1〜2泊の休日勤務が発生する」と、一方的な休日出勤を無くさない姿勢です。現状4〜6月、本人の同意なき一方的な休日出勤はありません。これは年休裁判や診断書強要都労委、苦情処理会議での追及によって、会社の主張が法的的につじつまが合わなくなってきたことから、会社をして要員対策を行わなくてはならない状況に追い込んでいくという事です。当面は現在の闘いを継続します。また、関係する4分会で議論する場についても検討します。

「新しい人事賃金制

度等』の見直しについて」の改定について、6月5日に団体交渉を行いました。新たな提案は、50歳以降の定期昇給を1乗数100円としています。このような制度で65歳まで生きがいをもち続けて働きがいをもち続けて働きません。定期昇給額の通減はやめるべきです。これでは、さらに「一部」の者しか報われぬ方向に強化され、社員間の競争が激化するのには必至です。手当が若干増えるとしても、会社はそれ以上に人件費削減と、社員を異動させやすくすることを目論んでいることは間違いありません。私たちは、若い社員の将来に責任を持つ決意を込めて、改悪反対の闘いを構築します。

ら安全をつくり出す闘いを進めます。会社は5月30日、「リニア中央新幹線の開業が遅れる可能性がある」と発表しました。工期が延びれば建設費はかさみまます。建設によって経営破綻に陥る可能性があります。私たちは、リニア中央新幹線建設に反対する市民、沿線住民と連帯して建設反対の闘いを進めていきます。安倍首相は2020年の改憲を目指しています。国民投票を視野に入れた「NO」と言える仲間を今以上につくり出さな

JR東海労は言いたいことが言える! 池田さん歓迎集会盛大に開催



新幹線関西地本は6月16日、西町甲東会館で「池田裕生さん大歓迎集会」を開催しました。新幹線、静岡、名古屋の各地本からも多くの仲間が駆けつけ、総勢50が参加しました。また、今年に加入した水野良則さんと寄本智

さんや、松山さんも参加し、池田さんの加入を心から喜び合いました。各地本・分会から、池田さんと共に闘うための連帯挨拶がされました。最後に、池田さんは「今までJR東海ユニオンに



私たちが、今後もひとつひとつの課題を解決し、職場から根付いた親和性のある労働運動を展開します。

くはなりません。沖縄では、安倍政権は民意を無視して辺野古新基地建設を進めています。私たちはこのような暴挙を許せません。私たちは、沖縄の市民・労働者と連帯して、平和・人権・民主主義を守り広げ、一切の戦争政策に反対するために闘います。

私には、2011年に当時22歳でJR東海ユニオンから加入しました。私は、管理者からパワハラを受け、退職をほめられました。JR東海ユニオン役員は、パワハラを目の前で見ても何もありません。あげくの果て「自分の身は自分で守れ」と言われました。

私は、現場労働者として職場の課題を正直に出して、交渉しています。そして、それが東海労HPに掲載されます。HPを見ると批判ばかりでも反対と言われてしまいかもしれません。しかし、それは違います。実際に職場では問題点ばかりで、JR東海ユニオンではそれに気付きませ

とが言えなかった。JR東海労に来て言いたいことが言えるようになった。会社からの嫌がらせ

があつたが、跳ね返してきた」と決意表明を行いました。

JR総連第35回定期大会 松山代議員トップ発言(抜粋)

私は、2011年に当時22歳でJR東海ユニオンから加入しました。私は、管理者からパワハラを受け、退職をほめられました。JR東海ユニオン役員は、パワハラを目の前で見ても何もありません。あげくの果て「自分の身は自分で守れ」と言われました。

私は「この人たちは会社にも何と言えない。これ以上組合費を払う意味が見い出せない。自殺者もいたし、自分以外にこれ以上被害を出させたくはない」と、抗議の意思表示と新たな道筋を示すためにも、JR東海労に加入しました。

その後、なかなか実現しなかった組織拡大が、今年度は3名もの加入を実現させました。粘り強